



成長

教会標語

日々新たにされる私たち

(Ⅱコリント5: 17)

編集 < 総務 >
 発行人 西村 敬 憲
 発行所 岡山市東区
 西大寺中野 543-2
 日本同盟基督教団
 西大寺キリスト教会
 電話(086) 943 - 7552

「イエスへの家族批判とその救い」



牧師 赤江 弘之

一二弟子が選ばれた後、イエス一行が戻った家はカペナウムのシモン・ペテロの家であった。前に、ペテロの姑と中風の男が癒され他場所である。当然のように群集が押し寄せてきたので、一同は食事をする暇もなかった。イエスは、この家を拠点にしてガリラヤ地方の各地で伝道していた。

(マルコ三・二〇)

「身内の者はイエスを連れ戻そうとした。(二一)

人々が「イエスは気が変になっていく」と言っていたからである。家族もそのように思ったのである。三〇歳になるまで一緒に生活した家族は、一番よくイエスを知っていた。まじめな働き者の大工で、母や姉妹の面倒をよく見ていたことであろう。町でも立派な青年だと評判であった。あんなに家族を大切に、責

任を持っていたイエスが、突然家を捨て、家族を捨てて、ユダヤの国を放浪したのである。その家族が、今やイエスを狂人とみたのは、イエスの生活の突然の変化を見たからで無理のないことであった。突然の職業放棄、家族放棄は、それまでのイエスには考えられないことであった。

家族から見ると、神の国の宣教だと言って昔から行きたわっているユダヤ教を批判し、律法学者と衝突し、迷信じみたことを教え、しかも自分があたかもメシアであるかのようなことを言いふらしている。これは神を冒瀆することであり、ユダヤ教社会では許されぬことであった。国民の誇りとしてユダヤ教信仰に反する生活を見過ごしにはできない。それに反して汚れたツァーラートの病人や、

憎むべき取税人の友となることなど、まじめなユダヤ教徒のやるべきことではないという理由であった。さらに、イエスの奇蹟は魔術とみられ、普通の人間にはできない魔術を行って、人を惑わそうとしているというユダヤ教の教師ラビたちの教えに影響されていたのである。それがユダヤ人社会の一般常識であった。

イエスの家族の救い

イエスのことを最もよく知っているはずの家族が、イエスを狂っていると、思い、連れ戻そうとしたのは皮肉なことであった。イエスの神の子としての活動は、人間の世界を超えた神の国に属することであったので、人間的なイエスの側面を最もよく知っている家族が、最もイエスのことを知らなかったのは、当然のことであった。

イエスが後に、「家族の中に平和をもたらすためではなく、剣をもたらすために来た」といわれたのは、「ご自身が経験されたことであつた。それはマタイの福音書一〇・三四〜三九にあ

る。わたしが、イエスの福音のために会社を辞めて神学校に行くことを伝えた時、父母をはじめ、家族・親族全員が激しく反対した時の状況が昨日のこのように思い出される。

信仰によることは、しばしば人間的な知識や学問や常識に反することに見られることがある。イエスの家族は、イエスを愛するゆえに連れ戻そうとしたのである。イエスは、その愛を知っていて、ご自身の十字架の使命に突き進まれたのであつた。

イエスは、母マリヤの老後を弟子のヨハネに託し、弟ヤコブはイエスの死後、イエスをメシアと信じるようになった。それはおそらく復活のイエスに接してからであろう。第一コリント一五章七節でパウロは、ヤコブへの顕現を語っており、それがヤコブの回心の動機であつたと思われる。「その後、キリストはヤコブに現れ、それからすべての使徒たちに現れました。」その後ヤコブはエルサレム教会の指導者となり、パウロ

※ 次ページへ

Victory 2024 に参加して

万城 励

Victory2024。その中の一参加者として、証をさせて頂きます。

今回のテーマは去年に引き続き「Be one」。そのテーマの通り、教団教派を超えて神様の前に「一つとなつて」賛美を捧げていました。その光景というのは、幼い頃から Victory に参加している自分にとっては当たり前のものでした。

しかし、「その根底には何かがあるのか。」「ふと思わされました。その疑問を抱えている中で、東京フリー・メソジスト南大沢チャペルの飯田岳先生から、

「Sit, Stand, Walk 座り、立ち上がり、歩き出す」というメッセージが語られました。何を望んでいるのか、と語りかけてくださる神様の前に抱えている思いをもつて座る。そして、その思いを抱えている私たちに復

活の力をくださり、立ち上がらせてくださる。最後に、癒しを与えられた私たちを遣わしてくださる。歩き出すことができる。というメッセージを語られました。そのメッセージで飯田先生が強く語られていたのが、「復活」です。神様は今も生きておられ、働きかけてくださっている。この言葉を受けて、私たちは十字架による愛を受け取ると同時に、今も生きて働きかけてくださっている神様を見上げていくことを望まれていると思われました。

それを受けて、教団教派を超えて神様の前に「一つとなつて」賛美を捧げている根底には、「今も神様が生きて、働かれています。」という紛れもない事実がある。Victory2024 に起こっていると実感することができました。

Victory だけでなく私自身にも、「今も神様が生きて働かれています。」ということを確認したことがあります。

高校三年生の時。私は大受験に失敗しました。自分の無力さを痛感し、周りの目が自分の心をえぐるように突き刺しました。そんな現状ゆえに、「神様がいるなら、なんでこんな思いをさせるの。」と「神様の愛」に不信感と嫌悪感を抱きま

した。しかし、そんな自分の思いや祈りを軽んじる神様ではありませんでした。兄の誘いを受けて、K GKの春期学校に参加しました。そこで交わりを通して、癒しを与えられました。私を見捨てなかつた神様の深い愛によって「神様が今も生きて、働かれています。」ことを気づかされました。私は希望する大学ではないところに通うことになりました。しかし、悪い方に行くどころか、人間関係は守られ、同じ大学の新生入生に同じクリスチャンが二人も与えられた、岡山にすることができ

たゆえに所属教会の中高生のための働きに携わることができました。

飯田先生が仰っていた通り、「癒すだけでなく、遣わしてください」神様も感じることもできました。

この Victory2024 を通して、「今も生きていて、働かれておられる神様」という恵みを受け取る機会となりました。

した。また、多くのクリスチャンを遣わし同じ神様を愛するものとして、神様を見上げて賛美できるこの集会のすばらしさを改めて思わされる機会となりました。実行委員の方々、賛美奉仕をしてくださった方々、目に見えないところで奉仕してくださった方々、そして神様に感謝したいと思いま



「弱さ ゆえの恵み」
レディースフェロシツプ参加報告

佐中 久美子

十二年間！青春時代の全てが、病との戦いだった。それも人々から「けがれてる」と避けられ疎まれる「長血」という病。医者への支払いで経済的にも困窮し、孤立し絶望の中にいた女の人が「あの方（イエス様）の衣にでも触れれば、私は救われる」と広言し、群衆に紛れて後ろから衣にそっと触れ、癒やされます。（マルコ五・二五〜三四）

この時、どうしてイエス様は周囲を見回して、誰が触ったのか知ろうとされたのでしょうか。・・・それは、この女の人と人格的にコミユニケーションをとりたかったから！迷子になったわが子を群衆の中から見つけ出そうとする親のように懸命に見回し、「娘よ（この呼びかけは「うちちゃん」というニュアンスらしい）。安心して行きなさい。」と

言うてくださるイエス様。この女の人のように、そのままの自分でイエス様のもとに逃げ込めばいいのです！うまくいかないとき、許せないとき、心がついて行かないとき、私たちは自分自身と向き合い、本当の弱さを知ります。そんな私たちをイエス様は「友」と呼んでくださいます。（ヨハネ一五・一五）そして私たちが出会う方々とも友になりたいと思っておられます。ならば私たちもよい距離感を持ち、「まあ、いいか。」と大きな懐で抱くように人と接したいものです。たとえ思い通りにならなくても、「それでよし。」と主にゆだねること。真理は、「中心が一つ（私）しかない円」ではなく「中心が二つ（あなたと私）ある楕円形」だから。押しつけない、隙間のある人でありたい。自分

を正しく知るために、聖書の御言葉に寄り添いたい。（詩篇一一九・一三〇）
佐賀開拓伝道には、たくさんのご苦労があったそうです。とにかく「出会った人には、あいさつ！」。だつて復活の主も「おはよう。」とあいさつされましたよ！三浦綾子読書会も実施し、「塩狩峠」の映画会の際には一七七名の方々が集まったそうです。今、教えられていたことは、「相手の必要をよく聞いて、一人一人を大切に、友にする」ということ。
以上のような入江直美先生のお話はとてもわかりやすく、シェアリングタイムが二回設けられ、よき交わりが与えられました。準備してくださった兄弟姉妹、ありがとうございます。
佐賀バイブルチャーチ、中国四国宣教区の諸教会の上主の豊かな祝福があります。すやうにと祈ります。

受洗五〇年の恵みに感謝して

守田 美都子

渡場町の長屋の教会学校に、伯母に連れていつてもらったのが最初でした。教会学校で育てられ、「もう、そろそろいいんじゃないの」と背中を押され、受洗したいという思いが起こされました。
赴任間もない赤江先生から洗礼準備の学びをしていただき、岡南教会の鈴木先生の按手により、受洗して早五〇年が過ぎたのかと、この間神様は、よく忍耐強く私を見守ってください、感謝のことばしかありません。
「あなたの若い日にあなたの創造者を覚えよ」とそのみことば通り、幼い時からみことばに励まされ支えられた年月でした。
伯母から「みつちゃん頼むよ！」と言われ、五〇年の信仰生活の中で四〇年近く教会学校の働きに関わることができたことは、大きな恵みです。
支えられたみことばは数々ありますが、その中でいつも私の頭をよぎるみことばは、「神のなされることは、すべて時になつて美しい」（伝道者の書三・十一）、どれもその時になつたみことばが与えられたことも大きな恵みです。
みことばは、口語訳から新改訳にそして、二〇一七年には、新たな訳に替わり、記憶の中にはそれぞれミックスしたことばになりつつあります。
「あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」
（申命記 六・五）
「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。」
（マルコ 一二・三一）
特にこの二つのみことばは、今までもこれからも私の支えと励ましになってくれるでしょう。

「楽しい」新生活

井上 亮

四月から、西大寺キリスト教会の教育主事としての働きが始まりました。今の生活を一言で表すと、「楽しい」だと思います。公立学校をやめるまでに、どのような気持ちの変化があったかも合わせて、今の「楽しい」についてお分かちします。

二〇二二年の春ごろ、西村先生からSICAの働きに加わることに誘われました。驚きもありましたが、今ある西大寺キリスト教会の働きがこれからも続いていくためには様々な必要があり、その一つとして今SICAで働くことへお誘いを受けているのだらうと理解しました。すぐに決断したわけではなく、そこからしばらく祈って考える時期がありました。当時、僕は小学一年生を担当していました。それま

で二、六年生は担任していたので、一年生担任で全学年制覇だ、なんて思っていました。「低学年のうち学校生活に慣れ、できることを増やしていたからこそ、中・高学年でスムーズに学習や活動を進めることができる」とこれまでの経験から感じていたため、意気込んで始まった年度でした。意気込んだかいもあり、子どもたちはいろいろなことを身に付けていきました。初めての一年生担任にしては、なかなかいい感じだと同僚の先生から言われたこともありました。しかし、どこかしらに少しの違和感を持ち、その違和感の正体には気付かないまま過ぎっていました。

秋になり、SICAを見学させてもらうことになりました。午前中いっぱい、SICAの子どもたちや先生の様子を見て、少しずつ自分が普段の学校生活で感じていた違和感の正体に気が始めました。それは、「しなればならない」「するべきだ」と抑圧とも言えるような形で子どもたちとかかわる自分への違和感でした。またそれだけでなく、同僚の先生たちも、「〇〇しないと!」といろんなものに追われて過ごしていることにも気がきました。SICAの子どもたちとても素敵な姿は、「したい!」「やってみよう!」(時には「したくない!」も・・・笑)を動機にして過ごしていることだと僕は思っています。そして、先生たちは子どもたちのその気持ちや大切にしながら一緒に生活をしています。これは、働き始めた今、より感じているところだと思います。そのようなSICAの教育のあり方に共感できたことが、教育主事としての働きを選択しようという後押しになったと感じています。

神様は、僕自身を自由な選択ができる存在としてデザインしてくださっています。どう生きるか、自分で選ぶことができます。ロボットのようには言われたことをするだけの存在としてつくることができたはずですが、そのようにはせず、自由を選択できるのです。自由がゆえに罪を犯してしまいう自分に落ち込むこともありますが、それでもそのように神様がつくってくれたことが嬉しいのです。だからこそ、同じように神様にデザインされた子どもたちの自由な選択を支えることが教育に携わる者としての使命だと僕は考えています。

※ 今、僕が「楽しい」と感じる事ができるのも、強制されたのではなく、自分で「したい!」と思った働きに加わる事ができたからです。まだまだ十分な働きはできていないかもしれませんが、今後、自分ができることを考えながら努めて働きたいと考えています。ぜひ、お祈りよろしくお願いします。

が回心した後エルサレム教会に行ったとき、ヤコブはペテロと共に教会の柱であった。(ガラテヤ一・一七〜一九、二・九)。
イエスの男兄弟四番目のユダは、新約聖書黙示録の前の「ユダの手紙」の著者である。ユダは自分のことを「イエス・キリストのしもべ、ヤコブの兄弟ユダから」と書き出している。
彼も復活前のイエスを信じていなかったが、復活後は弟子の内に数えられるようになった。(使徒一・一四) イエスの家族はすべてクリスチャンになっていたのである。そして、西大寺の群れも家族の救いによって成長してきた。あなたの家族の救いも信じて祈りましょう。